やまぐちっ子 学力向上だより

第５３号　H25.10.30
山口県教育庁義務教育課

授業づくり拠点校研修会開始

本県の課題である「活用する力」を高める授業についての実践研究を行うことにより各学校の授業改善を推進する「活用力向上研究事業」の一環として、５月には、すべての学校の学力向上の中核となる先生方を対象とした「活用する力を高める研究協議会」を開催したところです。

その後、各学校では、「活用する力を高める研究協議会」の復伝をもとに、活用する力を高めるための授業改善、やまぐち学習支援プログラムの効果的な活用に関する実践研究が行われていることと思います。

１０月１日より、県内３５校の授業づくり拠点校における授業公開（国語、算数・数学、理科）及び研究協議を行う「授業づくり拠点校研修会」が始まりました。この研修会を機に、オール山口による授業改善を加速していきましょう。

今回は、１０月に行われた２校の研修会の様子をご紹介します。

下関市立角倉小学校（算数）

４０÷６＝６あまり４だけど、何箱できるかが問われていますね。

答えは、６箱かな？７箱かな？

３年算数「あまりのあるわり算数」
指導者　柴田　千明教諭

余りの処理の仕方について話し合う活動をとおして、余りを切り捨てる場合もあることを理解し、場面に応じて余りを適切に処理することができるようにすることをねらいとした本授業では、余りの処理についての自分の考えを図や文でかき、ペアや全体で伝え合う児童の姿が見られました。

日頃の授業で、図や文で自分の考え方や解き方をかくこと、分かりやすい説明のために「つなぎの言葉」を使うことなどの指導が行われていることがよく分かる授業でした。

授業改善のポイント

○　事実、理由、方法等を算数的用語を用いて書く場を設定する。
○　不十分な説明を提示し、根拠を明らかにした説明に書き直させるなど、分かりやすい説明について指導する。

参加者の声

活用する力を育成するための具体的な指導のポイントが分かる授業でした。「活用は習得への意欲につながる」ということも感じました。

山口市立宮野中学校（国語）

二首の短歌を比べると･･･
「田子の浦ゆ」の「ゆ」は経由、「田子の浦に」の「に」は到着、作品に描かれた様子はどうちがうかな？

３年国語「君待つと」
―万葉・古今・新古今―
指導者　濱崎　美幸教諭

山部赤人の「田子の浦ゆ～」（万葉集）と藤原定家が赤人の短歌を新古今和歌集に選ぶ際に改作を加えた「田子の浦に～」の二首の短歌を、比較して読み味わう授業です。

「田子の浦ゆ」と「田子の浦に」、「降りける」と「降りつつ」など、生徒たちは韻律と描かれた情景について比較しながら、短歌の内容とそれぞれの特長を明らかにしていきました。その後、どちらの短歌が好きか、自分の立場を明らかにし、そう感じた理由について話し合いました。

授業の中に、短歌を「比べる思考」と生徒の発言を「つなげる思考」の場面を仕組み、授業のねらいを見事に達成することができました。

宮野中では、「聞く・書く・話し合う」等、それぞれの学習活動を明確に区別する学習規律の徹底や、コの字型の学習形態を活用することで「活用する力」を育む授業実践に全校体制で取り組んでいます。

授業改善のポイント

○　それぞれの学習活動を明確に区別する学習規律を徹底する。
○　「何」を問うのか、「なぜ」を問うのか、「どのように」を問うのかなど、授業のねらいに即して適切な発問を工夫する。
○　学習活動に応じて、適切な授業形態を工夫する。

参加者の声

短歌に表現された言葉を根拠にして作品のイメージを語る生徒たちは、生き生きとしていました。言葉をとおして考え合うことの大切さを改めて感じる授業でした。